

わ け

10年歌うにゃ、理由がある!?

「本気のアマチュア」、10年間の総括。

2003年、「若手社会人向け合唱団」としてスタートした混声合唱団ブルーメンクランツ(通称: BK)は、今年創団10周年を迎えます。「歌う」「演じる」「創る」—「普通の社会人」が、限りある時間の中で続けてきた10年間の挑戦の数々。その集大成を、2013年6月22日(土)、トップバンホールにて皆様にお届けします。

(※演奏順は当日変更になる場合がございますのであらかじめご了承ください。)



●大森誠《私が歌う理由》● 演奏会の始まりを飾るのは、バリトン歌手でもある音楽監督・小林昭裕による独唱。三善作品の同名曲との違いをお楽しみください。

●三善晃《地球へのバラード》● 谷川俊太郎氏の独特の詩の世界を巧みに表現した、変化に富んだ曲調で愛好者の多い名曲。しかし！実際はかなりの難曲で、快適に聴いていただくには歌手の努力と忍耐が必要不可欠。頑張ります！！

●レイモンド・マリー・シェーファー《ナルキッソスとエコー》● 様々な実験的合唱曲で知られるシェーファー氏が、2009年に東京混声合唱団の委嘱により作曲したラテン語によるシアターピース(演技的要素を含む合唱作品)。動きやホール全体を使った表現はBKの「お家芸」ですが、今回はいろんな意味で拡大発展する予定。どこで何が起きるか予想できない、スリリングなステージをお楽しみあれ。



●野本洋介《めぐる》● 創団以来、BKは様々な同世代の作曲家に作品を委嘱し、初演してきました。今回、「いのちを嗣ぐ」をテーマに、節目のメインステージを委嘱したのは第1回定期演奏会以来、共演の機会が多い野本洋介氏(現在、読売日本交響楽団打楽器奏者)。すでに吹奏楽作品では著名な氏の初の合唱作品を、「トロンブルユの星」で第34回すばる文学賞を受賞した米田夕歌里氏の書き下ろしによる、みずみずしくも奥深い歌詞でお届けします。

混声合唱団ブルーメンクランツ



2003年3月創団の社会人合唱団。常任指揮者小林昭裕(合唱指揮者・バリトン歌手)、ピアニスト久住綾子を含め、大多数が20代~30代のメンバーで構成。アマチュア合唱団ながら、演奏技術と芸術性の向上に真剣に取り組む、積極的に「同世代のプロ奏者との共演」「同世代の作曲家への作品委嘱」「本邦初演/演奏機会希少作品の発掘」「演出つきステージ」など、オーソドックスな合唱コンサートのあり方にこだわらないステージ構成への挑戦を続けている。創団以来、トップバンホール等で9回の定期演奏会を開催。2006年、第61回東京都合唱コンクール銅賞受賞。

会場のご案内

トップバンホール 東京都文京区水道1-3-3

Tel: 03-5840-2200 <http://www.toppanhall.com>

地下鉄有楽町線「江戸川橋」駅4番出口より徒歩約8分
都営バス[上69][飯64]「大曲」または「東五軒町」下車徒歩約3分
(飯田橋駅からは徒歩約13分、後楽園駅からは徒歩約10分となります。
両駅ご利用の際はお時間余裕をみてご来場ください。)

